
蛇に嫁入り

九九ノ字 佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蛇に嫁入り

【Nコード】

N0591Z

【作者名】

九九ノ字 佳

【あらすじ】

いつも通りの毎日を過ごしていたはずの私はどこで間違ったのか蛇に嫁入りするみたいです。———人と妖怪の少し歪んだ恋愛話、第2です。

01

大嫌い

なんて嘘

大好きだから

「アヤトリ」

私は少し……いや、かなり天の邪鬼な性格だ。

大切な人に大嫌いって言うってしまうほどに
思っていることと言っていることが逆になることが多い。

そんな私でも私を受け入れてくれる大切な友達がいる。

少し天然な神社の跡取り娘の 天道 はなは と

少し怖がりな医者の娘の 涼風 さち の二人だ。

出会いは偶然だったけど今じゃあ、一緒にいることが当たり前になっている。

さちが行方不明になったと聞く前はこの友情に終わりがあるなんて信じてなかったんだ。

その日は、いつもより蛇をよく見かける日だった。

別に山の近くに住んでいるわけでもないけど

なぜか小さい頃から蛇をよく見ていたから珍しくも無かった。

だけど、その日は

心の中をかき回されるような不愉快な気持ちになったんだ。

まるで監視されているように感じたんだと思う。

蛇に監視されてるなんて、可笑しいこと言ってるけど。

もしかしたら自分も。

何て心配していたからそんな風に感じたのかもしれない。

そしてその心配は的中した。

色とりどりの

宝石も

価値がわからないなら

ただのごみ

「アヤトリ」

学校から家に帰っている途中、ふと視線を感じて私は立ち止まった。いつもは気にしないのになぜか今日に限って気になってしまったのだ。

人通りが少ない道だからか視線を感じる方を振り返ってみるとすぐに誰が見ていたのかわかった。

そこにはニヤニヤと笑う男の人がいた。

ぞわりと不快感が心のなかに溢れてくる。

その人はこの町の中で明らかに浮いている着物姿で首に赤い目のような水晶のついているチョーカーをつけている。

その男の人の緑のショートヘアは普通はあり得ない色で染めている

のかもしれないな、と心の中で思った。

全てにおいてどこか人と違う彼。

私が何より嫌だったのは蛇と同じ鋭い金の目で私を見ていたことだ。

「何か用ですか？」

駄目だとわかっていても問いかけてしまう。

男の人は気味悪く笑ったまま

「あんた、無防備だって言われない？」

逆にそう聞き返してきた。

馬鹿にされた気分だった。

まるで今、自分がここに居るのは間違ってるって言われた気がした。

こんなことならさっさと帰ればよかったと思いつながらその男を睨むと

「俺みたいな怪しい奴に声かけられたら普通、走って逃げねえ？」

大きく一歩こちらに足を踏み出して男は言った。

ビクッと体が強張ったが強がって

「べ、別にあんたくらいならすぐ逃げれるもん」

そう言ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0591z/>

蛇に嫁入り

2011年12月2日16時49分発行